

# 「Ruby」などのオープンソースで新たな産業創出を図っています。

(島根県松江市)

しまね OSS 協議会 会長 **井上 浩**



**プロフィール**  
1960年島根県生まれ。株式会社ネットワーク応用通信研究所を1997年から経営し、自由に使えるオープンソースソフトウェアを利用した事業を展開している。

OSSの日本語ポータルサイトの管理運営を目的にネットワーク応用通信研究所を1997年に設立し、その後、Rubyを使ったOSS事業を展開しています。実は、まつもとさんは創業と同時に当社に入り、Rubyの開発を続けています。その縁もあって、私がしまねOSS協議会の会長を務めさせて

いただいています。

**Q** 松江市ではITによる新たな産業おこしが進められていますが、しまねOSS協議会もその一環として設立されたのでしょうか。

井上：松江市は2006年度から「Ruby City MATSUEプロジェクト」を推進しています。「Ruby (ルビー)」は日本発のオープンソース(無償公開)のコンピュータプログラミング言語で、コンピュータに実行させたいことを書くための文法がシンプルなのが特徴です。そのため、ソフトウェア開発の機能性に優れ、しかも低コストであることから、世界で高く評価されています。その開発者であるまつもとゆきひろさんが松江市在住だったことから、Rubyを松江の新たな地域資源として捉え、産業振興を図っていこうと始めた取り組みです。松江市は松江駅前に「松江オープンソースラボ」を開設してOSS(オープン・ソース・ソフトウェア)に関する研究・開発・交流であれば無料で開放し、産学官による活動を開始しました。

しまねOSS協議会は、松江市のプロジェクトを支援しようという地元の声を受け、島根県内のOSSに関わる企業や技術者、研究者、利用者によって2006年9月に立ち上がった組織です。オープンソースラボを活用してRubyなどのOSSを通じた技術力・開発力の向上を目指した活動を展開しています。

私はLinux(リナックス)という

**Q** しまねOSS協議会はどのような活動を行っていますか。

井上：全国のOSS関係の著名人などを招いて話を聴く「オープンソースサロン」や、OSSによるワープロや表計算のソフトなどの使い方を教える「OpenOffice.org講習会」をオープンソースラボで開いています。2008年からはOSSに関する最新情報の展示やセミナーを行う「オープンソースカンファレンス」を松江市などと共催、2009年からはRubyのビジネス分野での情報交換を行う「RubyWorld Conference」も共催し、国内だけでなく世界からも参加者を迎えています。さらに2009年から、RubyなどOSSを使ったビジネスを提案してもらう「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」を松江市などともに行い、OSSに関する啓発・普及活動を展開しています。OSSに対する理解が高まり、さまざまなビジネスが立ち上がればと期待しています。

これらの活動によって島根県内ではRubyやOSSに対する認知度が高まっており、松江市にはIT企業が集積するようになりました。“Rubyのまち”として、世界からも注目を集めています。

**Q** 無償公開されているOSSを使って、ビジネスにどのように結び付けていくのでしょうか。

井上：例えば工具や部品が無料だからといって、誰もがパソコンをつくれるわけではありません。それらをつくるプロが求められ、ビジネスにつながっていきます。それと同じように、OSSという無料の道具でつくられる便利なシステムをイメージしてもらうようになれば、それをつくるIT産業の出番が生まれます。そういう流れをつくっていくことがOSSのビジネスモデルだと考えています。つまり、OSSに対する事業者と利用者のリテラシー(活用能力)の差が、ITビジネスの源泉なのです。

その一方で、利用者のリテラシーが高まれば、IT事業者との差が縮まってきます。利用者のリテラシーが高まり自らシステムをつくれるようになれば、ITビジネスの機会が失われるのではないかと、思われるかもしれません。しかし、そんなことはないのです。利用者のリテラシーが高まることで、ITリテラシー全体の位置エネルギーが高まります。そして、利用者の裾野が広がることで、新たなニーズが生まれてきます。その結果、より使い勝手のいい、付加価値の高いシステムが求められるようになり、IT産業がさらに成長する。それに伴って、さまざまな産業も活性化していきます。それが、しまねOSS協議会の目指している姿なのです。

**Q** 今後の活動で力を入れたいことはなんでしょうか。

井上：まずは現在の活動を継続していくことが重要です。加えて、若い人たちのITリテラシーを高めたいと考えています。そのため、中学生のRuby教室を行うなど、地道な活動を進めています。Rubyは習得が比較的容易だといわれていますので、できるだけ多くの人たちに親んでもらい、その中からITエンジニアやITビジネスを夢見る若者が育つことを願っています。ITを使った事業者が増えれば、日本の産業の成長につながっていくことは間違いありません。それを“松江発”で進めていきたいと思っています。

インタビュー・構成：  
清水英孝(株式会社ジェイクリエイト)